人のいる風景

坊野 ちひろ さん

【ぼうの　ちひろ　さん】千歳高等学校３年

●ガールスカウト北海道連盟の第 31 団（千歳市）に所属する。同連盟が 30 年以上続けているアメリカ合衆国アラスカ州への派遣交流に７月 29 日～８月８日までの間、参加。アラスカでは、ホームステイや現地のガールスカウトとの文化交流を図った。

ガールスカウトは もう一つの学校

小学1年生から、10年以上ガールスカウトの活動を続けている千歳高校3年の坊野さんが今月の主人公です。

「ガールスカウトのリーダーとして活動していた祖母の後ろを、小さい頃からついて歩いていたので、気がつくと加入していました。支笏湖での植樹、AEDの使用方法や救急救命の勉強など、ガールスカウトの活動は楽しい思い出ばかりです」と話します。

ガールスカウトでは、自分たちのやってみたい活動を毎年、話し合って決めるそうです。

「中学生のときに、市内のログハウスを借りて、1泊2日の宿泊体験を計画しました。小学生も含め10人ほどの団員でお好み焼きを作りました。今では宿泊体験は、毎年の恒例行事です」と坊野さん。

「ガールスカウトは、5歳から加入でき、年齢の上限がないので、さまざまな年代の人と友達になれます。毎年、北海道内の団員が集まる交流会に参加したので、同世代の友達がたくさんできました。今年の交流会では、災害に備える大切さを子どもたちに教える方法を話し合い、クイズ形式で避難方法などを教えることを考えました。ガールスカウトは、友達と気軽に話しができる場所なので、私にとって、もう一つの学校のような存在です」と話します。

坊野さんは、今年、ガールスカウト北海道連盟が3年に1度行うアラスカへの派遣交流に参加しました。「派遣メンバーになることが小学生のときから目標でした」と言います。

「今まで派遣された先輩たちに、アラスカでのホームステイ体験や文化についての話を聴いていたので、アラスカに行くことが決まったときは本当に嬉しかったです」と目を輝かせます。

「アラスカでは、私たちが考えた『ジャパンナイト』という企画を行いました。日本の文化を感じてもらうため、浴衣を着せてあげ、そのままプレゼントしたり、日本から持ってきた、お米とふりかけ、ノリでおにぎりを作って食べてもらいました。ホームステイ先の子がおいしいと言うので、次の日にも家で一緒に作りました。そのお返しに、オーロラの写真集をもらいました。いつの日かアラスカで実物のオーロラを見てみたいです」と嬉しそうに話す彼女。その姿から、アラスカと日本の文化交流を心から楽しんだことが見て取れます。

最後に「夢は、管理栄養士になること」と話してくれた坊野さん。「ガールスカウトでは『みんなのために動く』ことをモットーに活動しています。社会に出てみんなの役に立てる人になりたい。もちろんこれからもガールスカウトの活動を続けていきます」と笑顔で語ってくれました。